

夏休みエコ絵画コンクールは、千葉県が進める「総合的な環境学習の推進事業」に基づき、平成18年度より開催しており、千葉県内だけで実施しており、千葉県内毎年1万人を超える児童が参加しています。

このコンクールは、不要なもの、価値がなくなったものについて考え、ごみを減らしていくことは自分たちの務めだということを自然と気づかせます。そして「将来こんなふうになったらいいな」というアイデアを空想する時、子供たちはとても楽しく夢を膨らませます。このコンクールの人気の秘密がそこにあります。表現は絵画とコメントですが、絵が苦手な人にも取り組みやすいのが特長です。



●コンクールのねらい

自分たちを取り巻く環境や地球資源の大切さを感じ、学び、考えるきっかけを提供することを第一の目的としています。

「資源循環の持続可能な社会形成」は地球全体の課題です。したがってこれまでの応募作品はどれも地球愛に溢れています。

子どもたちが画用紙に向かうとき、まずは生まれ育つ千葉県を美しいふるさととして大切に思う気持ちが芽生えるでしょう。それが愛国心につながると良いと思っています。

●授業やご家庭で

「未来のごみ箱」は図工教科だけでは完成しません。身の回りや実社会で起こったニュース、社会科、理科、総合的な学習の時間、道徳、学校生活にヒントがあります。

●先生や保護者の皆さまに

皆さまにお願いいたします。低学年には、使い捨ての実態やおもちゃの寿命を例に意見を出し合う時間を設けていただけませんか。中・高学年では、清掃工場の見学や地域社会、千葉県の理解と関連させ環境問題のお話をしていただけませんか。

ほんの少しの話し合いの刺激が子どもたちの想像力を湧き上がらせると思います。

●学齢に応じて

学年を問わず、子どもたちの視点は広く、ごみを減らすためのアイデア、出さないアイデアは大人を感心させるのに十分です。低学年でも楽しく取り組んでいます。「整理整頓」や「環境美化」はコンクールの趣旨から外れますのでご注意ください。

●先生方の声

昨年、作品応募時にいただいた声を抜粋して紹介します。

応募に向けて参加児童の環境問題への関心が高まったように思う。小さな子ども、環境について考えることができるので、このコンクールの企画はとても良いと感じました。〈君津市〉

社会科「住みよいくらし」のごみ処理の学習のまとめとして活用できると思いました。ごみ処理場やリサイクルセンターの学習を行い、まとめとして「未来のごみ箱」としてどのようなものがあるかを考え、このコンクールを学習に活用できると思いました。テーマ「未来のごみ箱」を描く中で、未来を想像し、何が必要なのかを考えるきっかけとなると感じました。現状をしっかりと児童に伝えることで、より未来を意識した作品になると思いました。〈船橋市〉

子ども達のごみに対する意識でもっとも高いのは、ごみの分別とリサイクルに関する事のように感じた。回収されて〇〇になるというものでは、夢のある作品も多い。環境問題や貧困に関する作品もあり、様々な社会問題について考えるきっかけになったようだ。テーマがシンプルで低学年から高学年まで取り組みやすいと感じた。〈印西市〉

コンクールを通して、子ども達は、どのような未来であってほしいかを考え、確認するいい機会になると思った。特に低学年の子にとっては、「環境」という言葉に興味を持つことが少ない。また「地球を大切に」と言われても自分の生活に置き換えることが難しい。その中で、ごみ箱という身近にあるものから考え、どのような物だったらよいのかを試行錯誤していくことは素晴らしいことだと思う。〈野田市〉